

二〇二六年四月二五日(参加者一七名)

せせらぎの楽円やかに春日和	よし女
春日差し刎ねて岩打つ波の綺羅	よし女
春日影しるき古刹の深庇	澄子
声落とし美空へ消えし雲雀かな	こすもす
早起きの散歩春日に包まれて	きりん
天空に賛美やまざる雲雀かな	まろん
水鏡して春日満つ谷戸の池	むべ
遠富士へナイスショットや初雲雀	孤古老獺
雲雀鳴く真青き美空仰ぎけり	すみれ
春の日に萌えて瑞々しき大樹	わかば

若鮎句会・みのる選・二〇二六年五月三日